

(様式3-1)

平成27年1月29日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 岩手県教育委員会
 所在地 岩手県盛岡市内丸10-1
 代表者職氏名 教育長 高橋 嘉行

平成26年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成27年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	いわてけんりつしわそうごうこうとうがっこう	ふりがな	たなか こうのすけ
学校名	岩手県立紫波総合高等学校	校長名	田中 耕之助
ふりがな	しわちょうりつしわだいいちちゅうがっこう	ふりがな	たぐち しゅういち
学校名	紫波町立紫波第一中学校	校長名	田口 秀一
ふりがな	しわちょうりつひづめしょうがっこう	ふりがな	いわいずみ こうき
学校名	紫波町立日詰小学校	校長名	岩泉 康喜
ふりがな	しわちょうりつあかいししょうがっこう	ふりがな	こんの よしひろ
学校名	紫波町立赤石小学校	校長名	紺野 好弘
ふりがな	しわちょうりつふるだてしょうがっこう	ふりがな	あさぬま きんのすけ
学校名	紫波町立古館小学校	校長名	浅沼 金之助

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

小・中・高等学校を通じた英語教育の抜本的充実に向け、小学校英語教育の先進的な取組について試行し、その成果と課題を検証するとともに、小学校英語教育を踏まえた中学校、高等学校における教育課程及び指導方法を開発する。

(2) 研究の概要

この研究は、小・中・高等学校の各学校段階における目標設定や指導内容、指導方法について、各校種の教員が協力して開発し実践することをとおして、児童生徒の英語によるコミュニケーションへの関心・意欲及び英語運用能力の向上を目指し、以下の研究内容に取り組む。

- ① 小学校第3学年及び第4学年について、現行の小学校外国語活動のねらいや内容を踏まえた授業を週1コマ実施し、その有効性について検証する。
- ② 小学校第5学年及び第6学年について、教科として英語の授業を週1コマから3コマ程度実施し、その有効性について検証する。
- ③ 小学校での教科型の英語教育の成果を踏まえた中学校の指導及び中学校でのより高度化した指導内容の成果を踏まえた高等学校の指導について、教育目標・内容を高度化したCAN-DOの設定を行う。【小中高の一貫した学習到達目標の設定】
- ④ 小・中・高等学校における指導内容の着実な定着を実現するために、各校種の教員が共同で教育課程の編成及び指導方法の改善を行う。【小中高の一貫したカリキュラムの検討】

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

本地域は、小学校外国語活動導入前から町を挙げて小学校英語教育に取り組んでおり、英語教育に熱意のある小学校教員が多く育っている。また町内の中学校が連携して「読むこと」の指導に取り組むなど中学校英語科教員の研究意欲も高い。しかし、小・中学校の連携が十分に機能しているとは言えず、子ども達のコミュニケーションへの関心・意欲や英語運用能力を伸ばし切れていないという課題がある。

そこで、この研究は、小学校と中学校、さらに高等学校も含めた各学校段階における目標設定や指導内容、指導方法について、各校種の教員が協力して開発し実践することをとおして、児童生徒の英語によるコミュニケーションへの関心・意欲及び英語運用能力の向上を目指すことを目的とする。

②研究仮説

小・中・高等学校の各学校段階における英語教育について、以下のような取組を行えば、系統的な指導が可能となり、児童生徒の英語によるコミュニケーションへの関心・意欲及び聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの英語運用能力が高めることができるであろう。

- ア 小学校第3学年及び第4学年において、現行の小学校外国語活動のねらいや内容を踏まえ、コミュニケーション能力の素地を養うための授業を週1コマ実施する。
- イ 小学校第5学年及び第6学年において、小中の接続を考えた目標及び内容に基づき、聞くこと、話すことに加え、読むこと、書くことを含めた4技能の初歩的な運用能力を養うための、教科として英語の授業を週1コマから3コマ程度実施するとともに、児童の意欲を高める評価を行う。
- ウ 小学校での教科型の英語教育の成果を踏まえた中学校の指導及び中学校でのより高度化した指導内容の成果を踏まえた高等学校の指導について、英語によるプレゼンやディベートなど、教育目標・内容を高度化したCAN-DOを設定するとともに、英語による英語授業をとおして生徒の主体的なコミュニケーション活動が中心となる授業を行う。
- エ 小・中・高等学校における指導内容の着実な定着を実現するために、各校種の教員が共同で教育課程の編成及び指導方法の改善を行う。

③研究成果の評価方法

- ア 各学校段階の児童生徒に対して英語学習やコミュニケーションへの関心・意欲に関する質問紙調査を実施し、分析する。
- イ 外部検定試験（児童英検、英語能力判定テスト）及び県で実施する諸調査を活用し、英語力等の伸長状況を把握し、結果を分析する。

(4) 研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次
①小学校 外国語活動型	第3～6学年 1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ	第3学年1コマ 第4学年1コマ
②小学校 教科型		第5学年1コマ 第6学年1コマ	第5学年1コマ 第6学年2コマ	第5学年2コマ 第6学年3コマ

(5) 研究計画（平成26年度の進捗状況・課題）

校種・年次	取組内容
小学校 第一年次	<p>【主な研究内容】（◎重点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎小学校3～4年における「活動型」の実践 ◎「活動型」を踏まえた「教科型」の実施に向けた目標及び指導内容の検討 ○5～6年生における文字の扱いの工夫等 ◎「教科型」の年間指導計画及び教材の作成 ○諸調査結果の分析 <p>【使用教材等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～6年 Hi, friends! を使用（一部、独自教材を含む） <p>【進捗状況・課題】</p> <p><目標について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校5・6年生で教科化した際の CAN-DO をどのように表記するか。CAN-DO は技能面の到達目標であり、評価と表裏一体のものであるから、小学校段階でどのように設定するか、慎重な検討が必要である。特に、「読むこと」「書くこと」における設定の是非について検討が必要である。 <p><指導体制・指導力について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校において学級担任が中心となって指導する場合、教科化した内容を指導するために、担任が身に付けておくべき指導力をどのようにとらえるべきか。今後の教員研修や新たな免許取得に向けた動きとも関わり、今後さらに検討が必要である。 ●英語専科で指導を行っている学校は、現在、県内の公立小学校にはない。今後、専科教員や中学校教員の小学校兼任などの指導体制を導入する場合、どのような課題があるのかについても、情報収集と検討が必要である。 ●ALTについても、研修によって指導力の向上が必要である。 <p><指導方法について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校外国語の教科化に向けて、特にも「書くこと」の指導を行う際に、子どもたちの意欲の低下が懸念される。「書くこと」に対する興味関心を高めた上での指導のあり方について、今後も検討が必要である。 ●文字の取扱いに関わって、ディスレクシアなど英語（アルファベット）になると日本語以上に困難な子ども達にも配慮が必要である。音と綴りの関係に着目させるだけでなく、すべての子ども達が「読むこと」「書くこと」にスムーズに慣れ親しんでいくための指導や、身に付けるべき能力について、検討が必要である。 <p><評価方法について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校5・6年の教科としての評価をどのように進めるか、更なる検討が必要である。目標と対応した評価である必要がある一方、数値に頼らずに、児童が自分の伸びを実感でき、学習意欲を高めるような評価を工夫する必要がある。

		<p><教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校3・4年生については、Hi, friend! をベースとするが、今年度の実践から発達段階にそぐわない内容や、分量と時数の関係などから、語彙を精選したり、繰り返し学習する機会を多くしたりするなどの検討を加える必要がある。 ●小学校5・6年生の教材は、文科省の教材を使用しつつ、児童の実態や興味・関心等に応じて、教員が教材を開発する力を育てていく必要がある。 ●特に文字の取扱いについて、どの程度指導するか、学校として補助教材を児童に与える必要があるか、さらに検討が必要である。
	第二年次	<p>【主な研究内容】 (◎重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校3～4年における「活動型」の実践及び評価方法の吟味 ◎小学校5～6年における「教科型」の実践及び評価方法の研究 ○「教科型」の年間指導計画及び教材の再検討 ○諸調査結果の分析 <p>【使用教材等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4年 Hi, friends! を使用 (一部、独自教材を含む) ・5～6年 文部科学省作成教材を使用 (一部、独自教材を含む)
	第三年次	<p>【主な研究内容】 (◎重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校3～4年における「活動型」の実践 ◎小学校5～6年における「教科型」の実践 (時数増) ○「教科型」の年間指導計画及び教材の再検討 ○諸調査結果の分析 <p>【使用教材等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4年 Hi, friends! を使用 (一部、独自教材を含む) ・5～6年 文部科学省作成教材を使用 (一部、独自教材を含む)
	第四年次	<p>【主な研究内容】 (◎重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校3～4年における「活動型」の実践 ○小学校5～6年における「教科型」の実践 (時数増) ◎諸調査結果の分析及び研究のまとめ <p>【使用教材等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4年 Hi, friends! を使用 (一部、独自教材を含む) ・5～6年 文部科学省作成教材を使用 (一部、独自教材を含む)
中学校	第一年次	<p>【主な研究内容】 (◎重点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校「活動型」指導内容の実態把握 ◎「活動型」を踏まえた中学校指導方法の工夫改善 ◎小学校「教科型」指導の教育課程づくりへの参画 ○諸調査結果の分析 <p>【使用教材】 検定教科書及び一部独自教材 (第一年次から第四年次まで共通)</p> <p>【進捗状況・課題】</p> <p><指導方法について></p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在、小学校外国語活動の成果を十分生かした指導が中学校で展開されているとは言えない状況がみられる。今後、中学校の指導改善に一層力を入れていく必要がある。 ●小学校で身に付けた「素地」を中学校でどう引き出すかが鍵と考える。 ●言語材料や言語活動の内容などに関する小中接続もさることながら、小学校で「相手に伝えたい」「分かってほしい」という思いを大切に育てる指導を行っているのに対し、中学・高校で技能面に指導が偏りがちな点について、改善していく必要がある。 <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学・高校ではCAN-DOをもとにした評価が徐々に浸透してきている

	<p>が、それらが真に妥当なものであるか、吟味する必要がある。特にパフォーマンス評価について、生徒のどのような状況を見取り、どのように判断するか、教員間、学校間でぶれないような評価方法を工夫する必要がある。</p> <p>●生徒へ提示する CAN-DO リストは、その評価場面に適したより具体的な表現でその目標を示したものにしていけることが不可欠である。更に、学期ごとや年度末にはリストの見直すことで、生徒の実態にあったリストに作り変えていく必要がある。</p> <p><教材></p> <p>●中学校において、小学校の取組を活かす教材を工夫・開発していく必要がある。Hi, Friends と中学校教科書の各学年における指導事項の関連性を明らかにし、指導計画・展開に活かしていく。</p>	
第二年次	<p>◎「活動型」を踏まえた中学校指導方法の工夫改善</p> <p>○小学校「教科型」指導の実態把握</p> <p>○小学校「教科型」指導の教育課程の再検討への参画</p> <p>◎小学校「教科型」指導を踏まえた中学校の指導目標及び指導方法の検討</p> <p>○諸調査結果の分析</p>	
第三年次	<p>◎「活動型」を踏まえた中学校指導方法の工夫改善</p> <p>○小学校「教科型」指導の教育課程の再検討への参画</p> <p>◎小学校「教科型」指導を踏まえた中学校の指導実践及び教材開発</p> <p>◎実践結果を踏まえた指導目標及び指導方法の再検討</p> <p>○諸調査結果の分析</p>	
第四年次	<p>◎小学校「教科型」指導を踏まえた中学校の指導実践及び教材開発</p> <p>◎諸調査結果の分析及び研究のまとめ</p>	
高等学校	<p>【主な研究内容】（◎重点）</p> <p>◎小学校及び中学校における指導の実態把握</p> <p>○小中高を通じた英語教育の在り方に関する検討</p> <p>◎高等学校における指導と評価の充実と高度化した言語活動の試行</p> <p>○諸調査結果の分析</p> <p>【使用教材】検定教科書及び一部独自教材（第一年次から第四年次まで共通）</p> <p>【進捗状況・課題】</p> <p><目標について></p> <p>●中学・高校においては、今後、小学校で教科として学んだ子どもが入学してくることを想定しながら目標及び内容を検討することになるが、「想定」をもとに検討を進めることに困難さを感じている。特に高校については、実際に入学する生徒は地域の中学校とは限らないため、今後の生徒の状況を想定することが一層難しい。</p> <p>●CAN-DO リストを生徒・保護者・地域と共有すべきであった。</p> <p>●生徒に英語を使わせる活動がまだ不足している。</p> <p>●小学校、中学校の学習指導要領や教科書を十分に研究する必要がある。</p>	
	第二年次	<p>○小学校及び中学校における指導の実態把握</p> <p>◎中学校の指導目標及び指導方法の検討への参画</p> <p>◎高等学校における指導目標の吟味と高度化した言語活動の試行</p> <p>○諸調査結果の分析</p>
	第三年次	<p>◎実践結果を踏まえた中学校の指導目標及び指導方法の再検討への参画</p> <p>◎高等学校における指導目標の再吟味と発表や討論などの言語活動の実践</p> <p>○諸調査結果の分析</p>
	第四年次	<p>○中学校の指導実践及び教材開発等に関する研究への参画</p> <p>◎高等学校における発表や討論などの言語活動の実践及び評価の工夫</p> <p>◎諸調査結果の分析及び研究のまとめ</p>

(6) 評価計画 (平成26年度の進捗状況・課題)

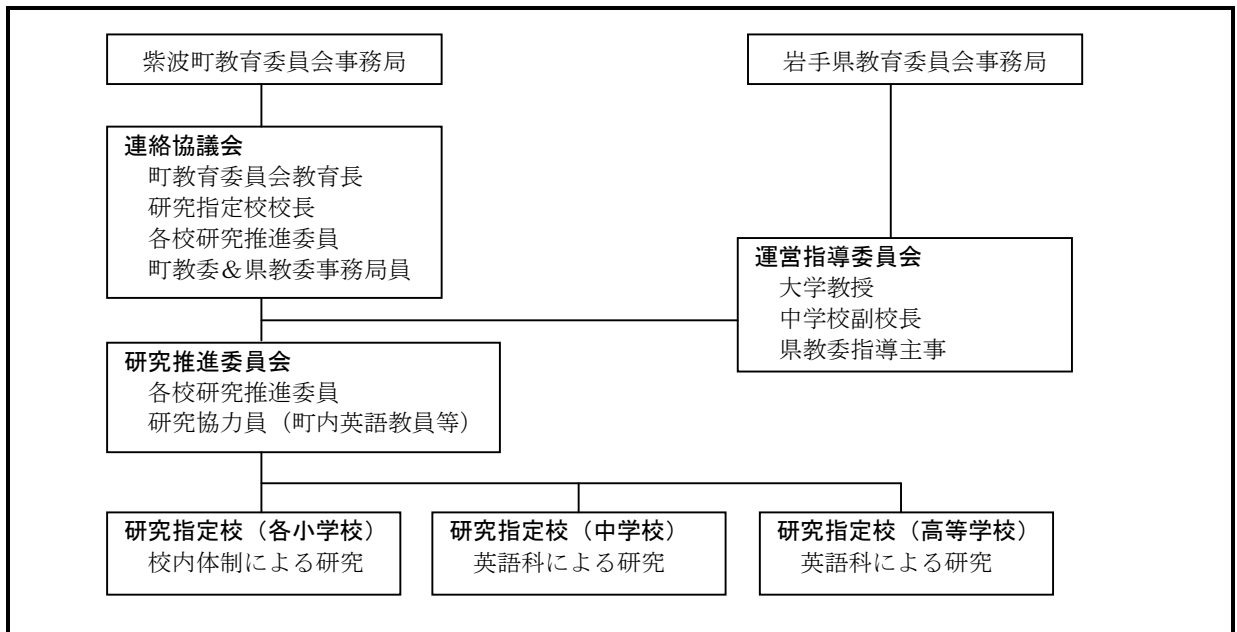
		小学校	中学校	高等学校
第一年次	計画	○アンケート調査 ・3～6年(12月) ◆児童英検 ・3～6年(12月)	○アンケート調査 ・1～3年(12月) ○英語チャレンジテスト ・3年(10月)	○アンケート調査 ・1～2年(12月) ○基礎力確認調査 ・1～2年(4月)
	進捗	○アンケート調査 ・3～6年(2月予定) ◆児童英検 ・4～6年(1月実施)	○アンケート調査 ・1～3年(2月予定) ○英語チャレンジテスト ・3年(10月実施済)	○アンケート調査 ・1～2年(2月予定) ○基礎力確認調査 ・1～2年(4月実施済)
第二年次		○アンケート調査 ・3～6年(12月) ◆児童英検 ・3～5年(12月) ◆英語能力判定テスト ・6年(12月)	○アンケート調査 ・1～3年(12月) ○英語チャレンジテスト ・3年(10月) ◆英語能力判定テスト ・1～2年(10月)	○アンケート調査 ・1～2年(12月) ○基礎力確認調査 ・1～2年(4月)
第三年次		○アンケート調査 ・3～6年(12月) ◆児童英検 ・3～5年(12月) ◆英語能力判定テスト ・6年(12月)	○アンケート調査 ・1～3年(12月) ○英語チャレンジテスト ・3年(10月) ◆英語能力判定テスト ・1～2年(10月)	○アンケート調査 ・1～2年(12月) ○基礎力確認調査 ・1～2年(4月)
第四年次		○アンケート調査 ・3～6年(12月) ◆児童英検 ・3～5年(12月) ◆英語能力判定テスト ・6年(12月)	○アンケート調査 ・1～3年(12月) ○英語チャレンジテスト ・3年(10月) ◆英語能力判定テスト ・1～2年(10月)	○アンケート調査 ・1～2年(12月) ○基礎力確認調査 ・1～2年(4月)

※○は県で実施する調査、◆は外部団体の試験である。

上記の他に、中学校、高等学校及び「教科型」を実施した小学校の学年で、パフォーマンス評価を実施。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要 (平成26年度の進捗状況・課題)



- ・岩手県教育委員会は、本研究の全体的な推進を司り、紫波町教育委員会と連携して研究推進の管理に当たるとともに、運営指導委員会を組織し、研究計画及び研究内容に関する指導助言、研究成果検証のための調査の実施と事業内容改善のための助言を行う。また、本研究の成果を県内に普及するため、拠点地域の学校を会場とした研修会などの取組を行う。
- ・紫波町教育委員会は、本研究推進に係る連絡・調整を行うため、連絡協議会を組織して研究推進計画を検討するとともに、各指定校の研究推進委員及び協力員からなる研究推進委員会を組織し、具体的な研究内容の検討、授業研究会の運営などに当たる。

(2) 運営指導委員会

活動計画（平成26年度の進捗状況・課題）

【活動計画】

年間を通して、主に次の3点について活動する。

○研究計画及び研究内容全体に関する指導助言

- ・指定校及び指定地域の取組内容に対して、委員の訪問により直接指導を行うほか、メール等により指導助言を行う。

○年間数回の運営指導委員会の実施

- ・指定校の授業研究会に参加し、直接指導助言を行う。
- ・指定地域の教員に対して、運営指導委員を講師にした研修を実施する。

○研究成果検証のための調査の実施と事業内容改善のための助言

- ・アンケート調査や英語力に関する外部試験等を指定校の対象児童生徒に対し実施する。
- ・調査結果及びその分析をもとに、研究及び事業内容の評価と改善のための助言を行う。

【平成26年度の進捗状況・課題】

- ・ほぼ、計画通りに実施することができている。
- ・指定校への訪問指導及び運営指導委員を講師とした研修会は効果的であった。
- ・研究推進委員会が小学校教員を中心に機能し、小学校における目標設定や指導内容の検討などをスムーズに進めることができた。
- ・小、中、高の授業を一日で参観する機会を設定することで、小中高の接続の視点と、現在の課題状況等を把握することができた。
- 小学校の指導について研究を先行して進めるため、中学校・高校における指導目標や指導方法等の検討がまだ十分に進んでいない。特に、中学校の指導をどのように改善していくかが研究の鍵であると考えている。
- 授業研究会及び研修会とセットで運営指導委員会を実施したため、運営指導委員会の中で協議する時間が十分ではなかった。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画立案、各校研究体制の整備 基礎力確認調査（高1、高2） 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ◆第1回連絡協議会（5月7日） 事業計画の確認、研究計画の協議 <p style="text-align: center;">○研究推進委員会（随時）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画への助言
6月	☆授業研究会（6月10日：紫波第一中）	<ul style="list-style-type: none"> 指定校訪問
7月	★授業研究会（7月4日：日詰小）	<ul style="list-style-type: none"> ■第1回運営指導委員会 研修の実施
8月		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ★授業研究会（9月4日：古館小） ☆授業研究会（9月24日：紫波三中） 	<ul style="list-style-type: none"> ■第2回運営指導委員会 研修の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> 英語チャレンジテスト（中3） 	<ul style="list-style-type: none"> 指定校訪問
11月	★授業研究会（11月14日：赤石小）	<ul style="list-style-type: none"> ■第3回運営指導委員会
12月	☆授業研究会（12月8日：紫波二中）	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の作成
1月	<ul style="list-style-type: none"> 児童英検（小4～小6） 調査結果の分析 	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果の分析
2月	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査（小3～高2） ◆第2回連絡協議会（2月20日） 研究報告書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 報告書の内容の吟味 次年度研究に向けた助言
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○研究推進委員会 次年度の研究計画の作成 	
【その他の取組】 <ul style="list-style-type: none"> 先進校視察、全国連絡協議会への参加等 		

〈本事業担当連絡先〉

都道府県教育委員会等名	岩手県教育委員会事務局学校教育室 義務教育担当 担当（三浦 隆）
連絡先 （電話番号） （電子メール）	代表：019-651-3111 （内線）6138 直通：019-629-6138 E-mail：miuratak@pref.iwate.jp